

八ヶ岳自然ふれあいセンター（山梨県北杜市）

色の選択で塗り替え後も木質感を残す

財団法人キープ協会の
染谷和則氏

小宮山工業の小宮山稔氏と小宮山由美氏

山縣塗装店の栗原昌志氏

八ヶ岳自然ふれあいセンターは清里高原の象徴とも言える清泉寮の近く、木造建物が散在する一角に建つ。役割は八ヶ岳南麓の自然と文化を伝えること。展示ホールや視聴覚ホールなどを備えるビジターセンター兼ネーチャーセンターとも言える。建築主である山梨県では建物完成から10年余を経た昨年12月、初めての塗り替え工事を終えた。周辺環境との調和から木質感を生かすことが求められたこの建物で塗り替えはどのように進められたのか——。指定管理者として施設を管理する財団法人キープ協会課長の染谷和則氏と、元請け工事会社である小宮山工業代表取締役社長の小宮山稔氏、塗装工事を請け負った山縣塗装店工事部長の栗原昌志氏に聞いた。

——メンテナンス工事の実施に関しては、どのように取り組んだのですか。

染谷 ● いまから5年前、異動でここに来て仕事を前任者から引き継いだ時、メンテナンスのことを担当してほしいと言われました。メンテナンスの具体的な計画がない中で、建物の所有者である山梨県の予算確保に向けて、先手を打ってこう、と。

通常、メンテナンス費用の要求がすぐに受け入れられることは考えにくいので、2、3年越してじっくりと取り組む覚悟をしていました。担当課ともその前提で打ち合わせをしていましたが、幸いにも2005年夏に県に提出したレポートですぐに予算が認められました。

——レポートではどのような点に言及したのでしょうか。

染谷 ● 完成から10年たっていること、標高が高いので紫外線が強く、木材の劣化も進んでいること、メンテナンスは施工時期が早いほど費用は少なく済むこと、などです。建物の南面や西面は日差しや風当たりが強く、木材の

割れや反りも見られたほどです。問題の起こらないぎりぎりの段階だったと言えるでしょう。

——2006年度予算で費用を確保して、メンテナンス工事を実施しました。小宮山 ● 工事の内容は大工事と塗装工事です。

大工事は、劣化した外壁材であるペイマツの張り替えです。結局、日差しも風当たりも強い西面は全体的に、ほかの三面も、傷んでいた外壁材を一部張り替えることになりました。外壁面全体394㎡のうち75.2㎡を張り替えたので、ざっと2割弱を替えた計算です。

塗り替え工事では、新築段階から使用していたキシラデコールを木材保護塗料として使用しました。将来のことを考えると、やはり耐久性の高いものが安心ですからね。それに、大自然を背景とする周囲の環境と木造の建築物をうまく調和させることも重要でした。

——塗料の色に関してはどのように決めたのですか。

栗原 ● 塗り替えの時には、色を次第

に濃くしていくほうが簡単なんです。塗り替え前の汚れを覆い隠すようにしてしまえば、ムラなく仕上がりますから。この建物はもともと、キシラデコールの中では「ビニー」という黄褐色のものを用いていたので、当初はそれより濃い「ウォルナット」というこげ茶のものを予定していました。

しかし、それでは建物の元のイメージと少しかけ離れた仕上がりになってしまう。私どもの会社の社長が職人気質ということもあって、木部をまず水で念入りに洗い、余分なカビやヤニなどの樹液をきちんと落としてから、ペイマツ本来の色にできるだけ近い色で塗り替えるという方針に切り替えました。

今回は運良く、外壁材の張り替えもあったので、劣化が進んではがした材をもとにサンプルを作って、洗い方をどうするか、色をどうするか、3種類ずつ想定して試すことができました。その結果、洗い方は最も丁寧なやり方に、色は想定した中で最も薄い「カスターニ」という茶褐色に落ち着きました。

塗り替える色を検討するときには、部材の水洗いを済ませた後で決めるのがポイントだと思います。そうしないと、つい濃い目の色を選んで、建物の元のイメージを損ねることになりかねません。

——元の外壁材と張り替えた外壁材とでは、色の出方も違いますか。

栗原 ● 古い材が塗料を吸い込みやすいのに対し、新しい材は吸い込みが悪いうえに、光沢も出ます。まだ劣化していないので木材の細胞が細かく、油分が残っているからでしょう。同じ色で塗ったのでは、どうしてもムラが生じます。



塗り替え工事終了後の外観(上)。正面エントランス側は西に面していて、日差しと風当たりの影響で劣化も著しかった。写真右は、塗り替え工事前の建物南面

名称 ● 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター 所在地 ● 山梨県北杜市大泉町西井出石堂8240-1 敷地面積 ● 約4995㎡ 建築面積 ● 約884㎡ 延べ床面積 ● 約799㎡ 建築主 ● 山梨県 完成 ● 1994年11月
〈改修工事〉元請工事会社 ● 小宮山工業 塗装工事会社 ● 山縣塗装店 施工期間 ● 2006年10月~12月



そこで現場では、「ウォルナット」や「エボニ」という、「カスターニ」より濃い目の色を調合して使いました。塗料の吸い込みが悪く、塗り直しがしやすい新しい材は、この調合色を現場で塗りながら、色の具合を見た目で調整しました。

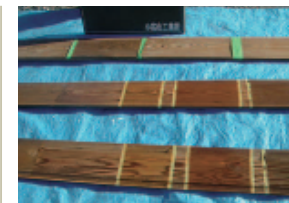
——キシラデコールを用いた塗り替えはいかがでしたか。

小宮山 ● 塗り替え工事を終えた後、県の担当の方が「思っていた以上にいい色に仕上がりましたね」と声をかけてくれたんです。木部の塗装はなかなか難しいんですが、元請け工事会社としては、この一言でずいぶんと気がラクになりましたね。

前の姿を忘れるほど自然な仕上がりが



外壁材の張り替えを終えたところ。外壁全体の2割弱を張り替えた



部材の洗い方と色を決めるにあたってはサンプルを作って比較した

建築主は一般に、塗り替えをはじめメンテナンスにはなかなか手を着けないものです。でも、こまめなメンテナンスを行うほうが、長い目で見ればランニングコストを抑えることができるんです。

栗原 ● キシラデコールは木材保護塗料の代名詞と言えるほど年中使っています。

改めて感じるのは、木部の塗装は難しいということですね。とりわけ塗り替えの場合には、注意が欠かせません。

古い材の場合、想定していない色で塗ってしまったら、あっという間に吸い込んでしまっただけで修正が利かない。取り返しがつかないこともありますから。——メンテナンス工事を終えて早くも半年が過ぎました。

染谷 ● メンテナンス前の状態を忘れてしまったほどです。いまの状態が日常の姿としてもう定着してしまいましたね。工事着手前の写真を見ると、「こんなに劣化していたのか」と、改めて驚くほどです。



【お問い合わせ先】

製造販売
日本エンバイロケミカルズ株式会社
総機 101 Parika Dico Group

木とともに生きる。【キシラデコール】
XYLADECOR

大坂 〒541-0051 大阪市中央区備後町三丁目6番14号 アーパックス備後ビル TEL. 06-6268-3428 FAX. 06-6268-3420
東京 〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目2番1号 シーパズN 9階 TEL. 03-5444-9872 FAX. 03-5444-9860
www.jechem.co.jp

キシラデコールに関する情報満載！
ホームページ公開中
www.xyladecor.jp